



特定医療法人 耕和会 理事長
社会福祉法人 耕和会 理事長 迫田 耕一郎

失敗して学ぶ

寂聴日めくりカレンダーに「人生は失敗をしながら学んでいくもの」とある。私たちは欲しいものを手に入れようと頑張っている。しかし困難に出会うと疲れ果てるから闘いから撤退することも少なくない。チャレンジを諦めると自らの欲望を抑えこんでしまう。それは悶々と耐えながら生きることである。欲望を捨てるから充実した人生を送れるのではない。安全だ、得策だと道を選んではならない。それはそれで新たな苦勞を背負うことになる。攻めても撤退しても思い悩むもの、闘えば十中八九は失敗するものと覚悟する。道を切り開くという気概を保ち続けることができれば人に協力を仰ぐしその工夫もする。闘うことのメリットはそこにある。人間やその気持ちを知るチャンスが巡ってくる。そこには学ぶべき材料が転がっている。徳を積んでいく訓練にもなろう。白い地図に新しい世界を描いて歩いていきたいものだと念じている。

参謀の協力を得る

私たちは専門職の集団であり意見は少なからず異なる。成果につながるには各人が持つ卓越した能力を適材適所に配置し長所を活かさなければならぬ。ベクトルを合成するためには発想だけに止まってはならない。討論を繰り返して参謀の理解を得ることがそれを具現化する第一歩である。分かりやすい説明と態度を変えない気構えが大切である。理解できなければ何度でも分かるまで説明する覚悟が欠かせない。意見が合わないからとプツンすればトップの任は果たせない。まず

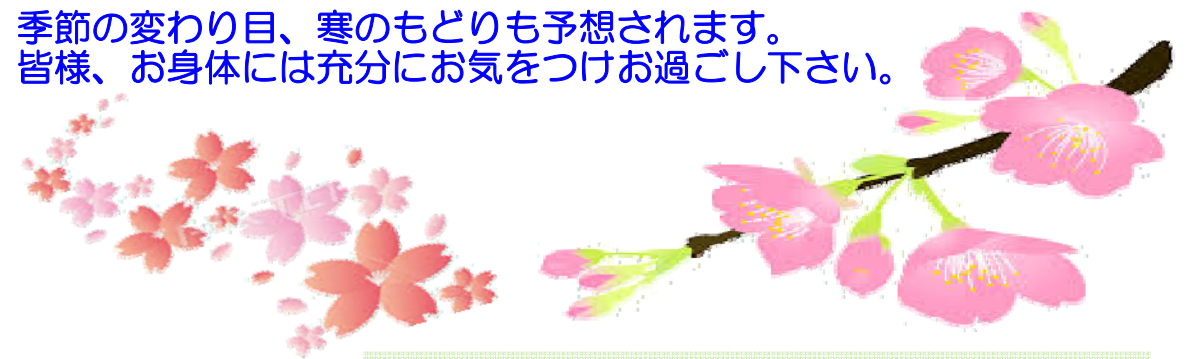
理解させるにどう動くか。それが命題である。意見を集約できなければトップは独断で命令することになる。全ての責任を負うという覚悟が命令である。ただ命令やトップダウンは参謀を無気力にするから戦線を撤退させる危険を孕んでいる。仕事の分担やローテーションについても然りである。参謀を活かせるかどうかは参謀に信頼されるトップであるか否かにかかっている。

参謀に信頼されるトップになるにはどうするか。トップの欠点を常にみているのが参謀である。敬っているどころか侮っている。恐れているどころか疎んじている。憎みこそすれ親しんではない。好いてもいない。物や金でつないで近づけ鼻息して信頼されるか。むしろ不都合である。遠ざければ油断もする。その心を読み取るべく勉強することがトップに課せられた大きな課題である。礼儀をわきまえることも重要である。大将は自分一人では何もできない。惚れて働いてくれる部下が必要である。ひもじい思いをさせないよう己の食を減らすか。一歩ずつ着実に成果をあげていくべく振る舞うか。

今年はプライベートで辛い思いが残る一年であった。しかしパブリックでは業務改善の工夫という題材を通して人心を刷新できないかという新たな試みをした。夢を未来につなぐには足元を見て進むことだと念じている。

お知らせ

季節の変わり目、寒のもどりも予想されます。
皆様、お身体には充分にお気をつけお過ごし下さい。



4月から新しいスタッフが加わります。先輩職員ともども宜しくお願い致します。